

(年度様式2) プロジェクト課題計画

資料3

課題No. 2				
課題名 加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立				
計画期間	令和6年度～令和7年度			
対象名及び対象者数	西村竜成（新規）、(株)スマートアグリ庄子（新規）、(有)ライスアーティスト（JA加美よつばさつまいも生産者）			
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、焼き芋や干し芋などの加工や海外への輸出品目としてさつまいもの需要が拡大する一方で、主産地の西南団地では土壌伝染性病害の拡大により生産量が減少している。県では、この需要の高まりを受け、JA全農みやぎを中心に令和4年度から園芸作物サプライチェーン推進事業を実施し、県内産地の生産流通拡大に取り組んでいる。</li> <li>JA加美よつばでは、令和5年度から同事業に参画し、新たな産地化に向けた取り組みとして、野菜集荷場内に簡易のさつまいも貯蔵施設を整備し、新たに2名の作付者を加えて出荷を拡大している。また、令和6年度には新たにキュアリング施設の導入を検討しており、さらなる生産の拡大を目指している。</li> <li>生産面においては、さつまいもは生育期間の限られる寒冷地での経済栽培は難しいとされ、産地化されてこなかった品目であるが、加美町の(有)ライスアーティストが長年さつまいも生産に取り組み、加美地域の気候や土壌条件に合わせた栽培のノウハウを蓄積しており、高い生産性を確保している。</li> <li>高まる需要に対応するために、早期の産地化を図るには、新規に取り組む生産者が早期に安定した収量と品質を確保することが重要であり、地域内で先進的に取り組む(有)ライスアーティストのノウハウを見える化しながら、加美地域の環境に合わせた栽培技術体系の確立が急務となっている。</li> </ul>			
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規のさつまいも作付者の高品質安定生産が行われ、作付拡大意欲が高まる。</li> <li>作付拡大の基礎となる、加美地域の気候に合わせた栽培体系が確立される。</li> </ul>			
県実施方針上の関連項目	1－(4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 2－(1) みやぎの食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援			
地域基本方針上の関連項目	2－(1) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 3－(1) みやぎの食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援			
担当チーム員	<table border="1"> <tr> <td>◎本田 修三、佐藤 浩也、笹原 剛志 早坂 浩志</td> <td>担当班及び 進行管理責任担当者</td> <td>先進技術第一班 笹原剛志</td> </tr> </table>	◎本田 修三、佐藤 浩也、笹原 剛志 早坂 浩志	担当班及び 進行管理責任担当者	先進技術第一班 笹原剛志
◎本田 修三、佐藤 浩也、笹原 剛志 早坂 浩志	担当班及び 進行管理責任担当者	先進技術第一班 笹原剛志		
令和6年度				
成果指標	<b>定性的目標</b> ・新規作付者が自身の栽培環境を把握し、それに合わせた栽培技術が実践され、次作に向けた課題が整理される。 ・加美地域の生産者間で相互の栽培状況が共有され技術交流が進む。			
	<b>定量的数値目標</b> ・新規作付者の収量 R5 1.7t/10a → R6 2.1t/10a → R7 2.5t/10a			
活動指標	<b>定量的数値指標（合計総現地活動日数 62日）</b>			
	<b>活動事項</b> ・新規作付者の力量に合わせた栽培技術向上に向けた技術指導 ・加美地域におけるさつまいも栽培マニュアル（初版）の作成			
関係機関の主な役割分担項目				
JA加美よつば（営農指導、保管・出荷、生産者支援）、農業・園芸総合研究所（経営分析）				
関連事業名と役割				
園芸関係事業（園芸推進課）、水田活用直接支払交付金（色麻町、加美町）				